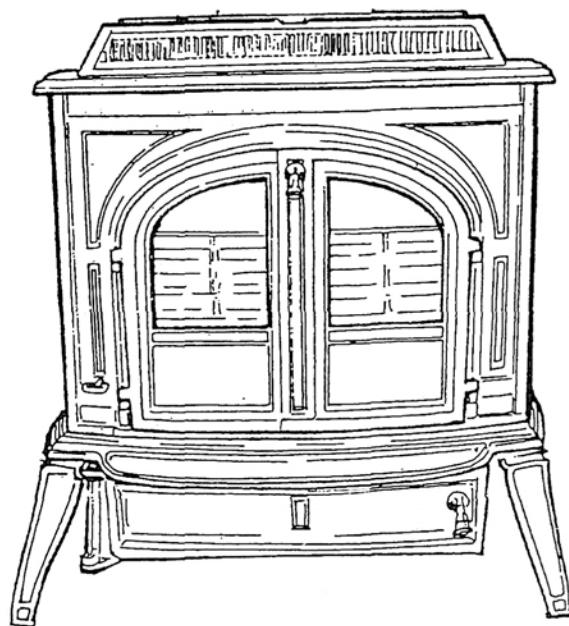




ビジラント多燃料ストーブ

取扱説明書



ストーブを使うときの注意

ストーブ設置や煙突の取り付けは、建築基準法および各地の消防法に従ってください。ストーブ設置や煙突の取り付けは、ファイアサイドの専門家に連絡をしてください。

ストーブおよび煙突と壁や天井の安全距離は、壁や天井の材質によって異なります。安全距離が取ってあるかを、確認して下さい。クリアランス表を参照してください。

ストーブは、必ず不燃材を使用した台の上に設置しなければなりません。クリアランス表を参照してください。畳やカーペット、木の床などの上に直接置かないでください。

ストーブや煙突は、家具やカーテンなど燃えやすい可燃物から十分（1220mm以上）に離して設置してください。

ストーブや煙突の真上や周囲1m以内に、可燃物を置いたり、衣類などを乾燥させないでください。

揮発性の液体やスプレィ缶などの高圧容器を、ストーブの上やそばに置かないでください。

THE FIRESIDE COMPANY

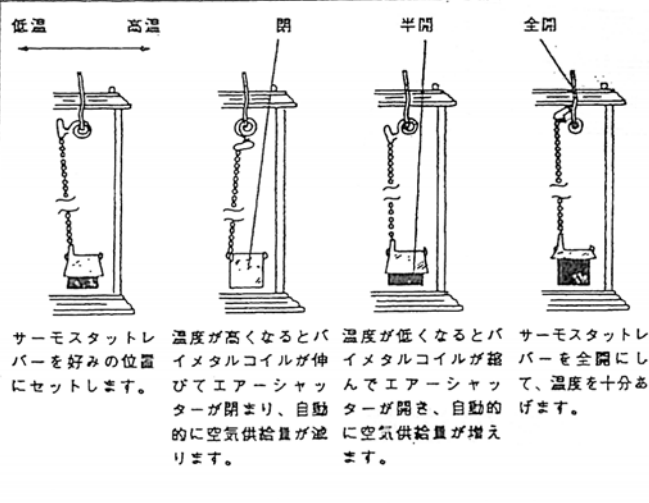
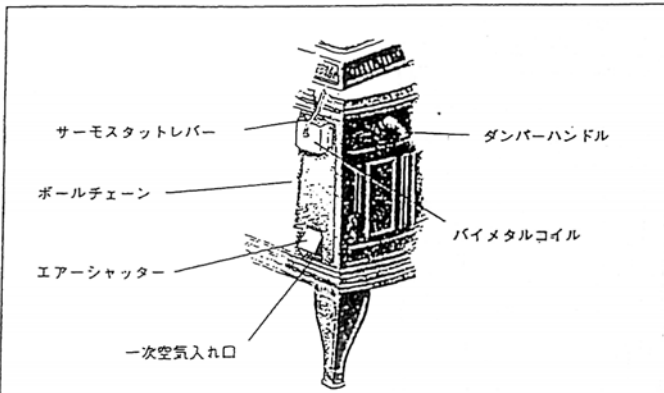
ビジラント多燃料ストーブ使い方

ビジラントストーブ燃焼のしくみ

◆ サーマスタットレバーの調整

よりストーブを熱く焚きたい場合にはサーモスタットレバーを左に（ストーブ背面より向かって左）動かします。熱を下げたい場合には右に動かします。

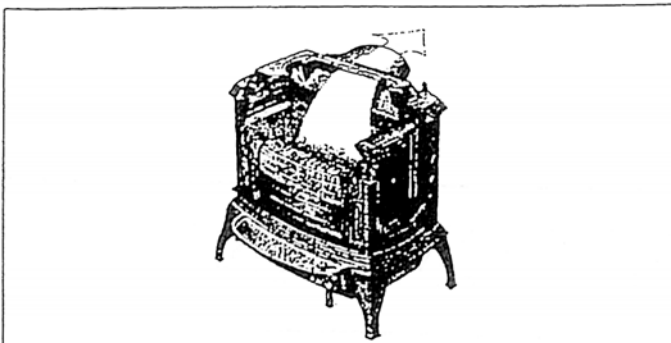
サーモスタットはストーブの燃焼空気を調節することによって熱を調節します。熱の量はサーモスタットレバーの状態によって微妙に調整することができます。



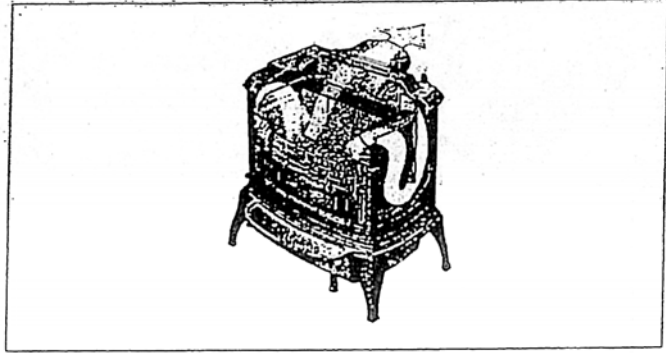
サーモスタットレバー後方からの図

◆ ストーブのダンバー、排出方向の調整

ダンバーが開いた状態の時は、煙は煙突に直接排出されます。この場合、熱は煙突を暖めて、強いドラフトを維持します。



ダンバーが開いた状態の時は、煙は煙突に直接排出されます。



ダンバーが閉まった状態で、煙と熱はより長くストーブに蓄積されます。

ダンバーが閉まった状態で、煙と熱はより長くストーブに蓄積されます。この結果、より多くの副射熱が室内に回り、煙突に逃げる熱はより少なく抑えられます。

ビジラントはダンバーが開いた状態でも閉まった状態でも長時間燃焼が可能です。しかし、煙突によってはダンバーが開いた状態のときにより多くの熱が要求されるかもしれません。

サーモスタットレバーは安定した燃焼ができるようにストーブの中に入る燃焼空気の給量を統制します。

◆ 最良の結果は高品質の燃料から

豆粒大の石炭（無煙炭または歴青炭）を燃料として使用できます。灰分の低い無煙炭は、ほとんどの他の種類の石炭に比べ、暖房力が強く、灰の量が少ないのが特徴です。石炭の灰分については、燃料販売業者にお問い合わせ下さい。

注：ビジラント石炭ストーブは、無煙炭（硬質炭）や薪または歴青炭を燃料として使用するよう設計されています。その他の燃料を使用しないで下さい。無煙炭や薪を燃焼にする場合多少の改造が必要なので別紙の改造説明書に従って下さい。

石炭は湿気から守るために覆いをして保管して下さい。短期間の保管の場合でも、暖房機器から安全な距離を保ち、石炭を入れてある容器を、暖房機器の付近の燃料補給や灰の取り出しをする場所に置かないで下さい。

石炭の火を起こす

石炭の火を上手に起こすために最も重要なことは、グレートの上に広葉樹などの堅木または木炭製の練炭を厚く敷きつめることです。石炭は薪に比べて着火点の温度が高いため、石炭の火を起こすにはまとまった火種の土台が必要です。さらに、この段階で発生する熱は、煙道を暖め、強いドラフトを作り出すのに必要です。

次の手順にしたがって石炭の火を起こします

1. グレートをねじった新聞紙で覆います。その上に、指の長さぐらいの短い枝（できれば広葉樹などの堅木）などの焚付けを敷きます。注：火はガラスの近くには起こさないで下さい。ダンバーを開け、グリドルを閉め、サーモスタットのレバーを左に移動させて下さい。

2. 新聞紙に火をつけ、焚付けが勢いよく燃え始めたら、さらに大きめの薪または未処理の木炭を積み重ねます。

3. グレートの上に真っ赤に熱くなった火種の厚い層ができ上がるまで、火を焚き続けます。重要：この段階での燃焼は時間をかけて行って下さい。石炭ストーブの働きが悪い場合、煙突システムの予熱が不十分であることが一番よくある原因だからです。

注：ビジラントの鑄鉄プレートは、ある一定の期間、熱したり、冷ましたりするのを繰り返すうちによくなじんできます。急速な温度変化による熱衝撃は、鑄鉄が割れる原因となることがあります。冷えきったストーブに、急激に燃えさかる火を起こすのは絶対にやめて下さい。

4. 中ぐらいの厚さ（2.5-5cm）の石炭を重ねて敷きます。最初の層のすぐ上に青い炎が見え始めたら、石炭がよく燃えているしるしなので、その時点で1回の燃焼分の石炭を継ぎ足します。

燃焼中はストーブが熱くなります。子供および衣類や家具を近付けないで下さい。皮膚に触れると火傷をすることがあります。

5. 石炭は前部グリルの上部まで、また左右の側面プレート上部にある排気口から2.5cmの所まで積むことができます。石炭の高さは、排気口から少なくとも2.5cm下までに止めて下さい。

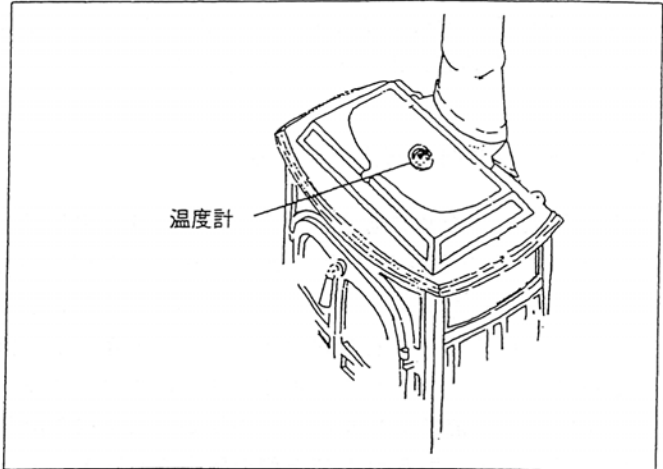
安全のために：ゴミやガソリン、ナフサ、エンジンオイルなどの可燃性の液体を燃やさないで下さい。石炭用のストーブで焚付けをする時や、火を起こし直すのに、木炭用着火液やその他の可燃性液体を使用しないで下さい。また、絶対にセルフスターティング式の木炭製の練炭を使用しないで下さい。これらの物質が暖められた時に発する揮発性ガスは、着火すると爆発する危険性があります。

注意：最も安全で、効率的な結果を得るために、ここに記した説明に確実にしたがって下さい。説明にしたがわないと、危険な煙突火災や家屋の火災につながる可能性があります。

日常の使用

◆ ストーブの状態を見るための表面温度計使用

グリドルの中心にストーブ温度計を置いて、ビジラントの表面温度を測定します。



ストーブがどのような状態であるか、一目で確認できます。

だいたい温度の目安は200℃～400℃の間ですが、これ以上に温度が上がる可能性もあります。もし、400℃以上になったら、空気の供給を減らして（サーモスタットレバーを右に動かす）、焚きすぎないようにして下さい。

焚き初めと、新しく石炭又は薪を補給する場合には、少なくとも250℃になるまでダンバーを開けた状態にしておいて下さい。火がまだ良く燃えていないうちにダンバーを閉めないようにして下さい。

表面温度が200℃以下の場合には以下の手順に従って、もう少し火を立ち上げて下さい。

- サーモスタットレバーを左に動かして空気の供給を増やして下さい。
- ダンバーを開けて下さい。
- ストーブの底にたまっている灰を取り除きます。
- 石炭又は薪をさらに足して下さい。

ストーブサーモメーターはストーブがどのような状態かを知らせてくれます。

- 石炭に再度着火する必要がある場合は、少量のよく乾燥し細かく割った枝などの焚付けを石炭の塊（おき）の上に置いてみて下さい。焚付けが燃えて生み出される熱がドラフトを増し、改善されたドラフトが石炭の塊を通る空気の流れを増し、よりよい着火環境が作り出されます。

◆ ダンバーの使用法

最初に火をつける時と、長時間燃やして薪をくべ足す時、または適度の熱量が得られないときに、ダンバーを開けた状態で焚いて下さい。

ダンバーを開けて良いのは強い火が燃えていて、ダンバーを開けている状態のときに十分強いドラフトがある場合のみにして下さい。

取り付け方法によって、(煙突の本数や曲がり、家の設計など) 良いドラフトが確立される時間は大体5~30分というように異なってきます。また、断熱煙突以外の化粧煙突の場合にはもっと長い時間がかかるかもしれません。

長い戸外の煙突ではダンバーは適度のドラフトを保つために煙突を十分暖めるために常にダンバーは開けた状態にしておく必要があるかもしれません。

◆ ストープに再び石炭を入れる

新しい石炭を少なめに敷き、グレートの灰を取り除く前に、火がつくのを待ちます。新しい石炭に火がついたら、シューカーハンドルを使ってグレートを十分に振って下さい。赤く熱した石炭がアッシュパンを覆うか、抵抗を感じるようになったら、振るのを止めます。スライサーを使って、前部グリルのバーの間から灰を取り除きます。グレートの両側および後側の灰も取り除きます。新しい燃料に火をつけるために、熱い石炭の火種をグレートの上に残します。

石炭を入れ直す前まで、火の燃え方が小さかった場合は、1度に加える石炭の量をほんの少しにして、火力がまた強まるまでダンバーを開けたままにして下さい。火の勢いが再び強くなったら、1回の燃焼分の石炭を継ぎ足します。

空気の供給量を減らしたり、ダンバーを閉める前に、新しい燃料が勢いよく燃えていることを確認して下さい。

グリドルやフロントドアを開ける前にはしばらくの間ダンバーを開けた状態で燃焼させて下さい。これで煙道に熱が導かれ、二次燃焼室の燃焼ガスがきれいになり、より良いドラフトを作ることができます。

◆ 暖かい天候時の考察

ドラフトの長さは外気温と煙道ガスの温度差によって引き起こります。外気温が高くなると温度の差が小さくなり、ドラフトに問題が起こってきます。

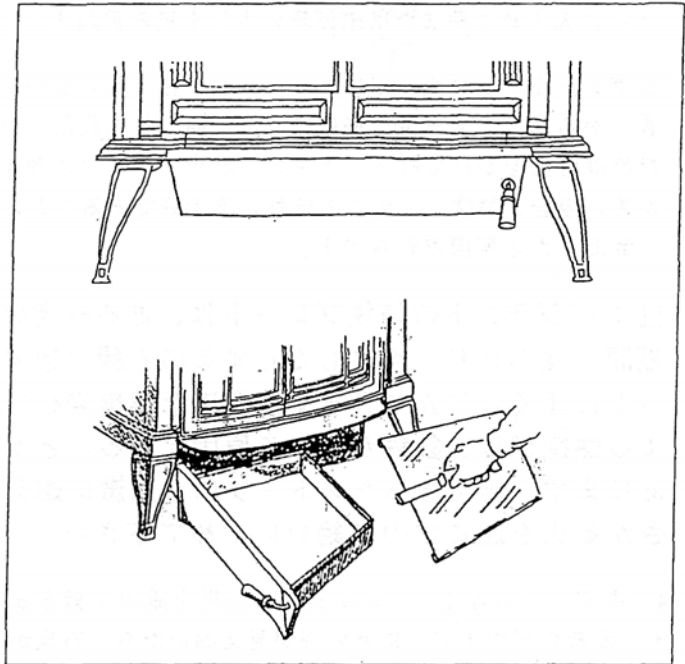
ドラフト問題を避けるために外気温が10℃かそれ以上の場合にはダンバーを開けて、煙道の温度を高温に保って下さい。

また、風のためにドラフト問題が発生した場合には煙突キャップを取り付けて下さい。

◆ 灰を規則正しく取り除く

取り込み空気が塞がれるのを避けるために、灰が灰受け皿一杯になる前に灰受け皿を空にします。灰受け皿の灰を空にする時には、燃焼室にまだ熱い灰の燃えさしが入っている可能性がありますので、グレートを使って灰を灰受け皿に落とす前に行って下さい。

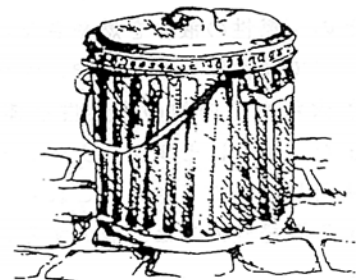
灰を空にするためには灰受け皿のドアを開けて、灰受け皿を取り出します。不燃性の灰取りバケツに灰を処理します。



◆ 安全な灰の処理

灰の処理を行う容器は金属性で(不燃性)必ずきっかりと閉まる蓋がついていなければなりません。屋外に、あらゆる可燃性の物から離して設置しなければなりません。ストーブから取り除かれた灰は何日間にも渡って燃え続けたり、熱を発したりすることがあります。灰は必ず正しく処理して下さい。

灰は適切な方法で捨てて下さい。石炭の灰は許容量以上の有毒な重金属を含むことがあるため、庭や畑には撒かないで下さい。薪の灰は無害ですので、安心して畑の肥料としてご利用できます。



ビジラントの維持管理

ストーブをいつまでも新しく最良の状態に機能させるために

メンテナンスを始める前に、必ずストーブに残っている火の気を外に出し、完全にストーブを冷まして下さい。

◆ 鋳物鉄表面の手入れ

乾いた布で時々汚れを取れば、ビジラントは、新品同様に保たれます。ストーブの塗料は、必要に応じて塗足すことが可能です。まず、ワイヤブラシで塗る必要のある部分をきれいにします。グリドルをはずし、別の所に置いておきます。

それからバーモントキャスティングスの耐熱ストーブ塗料を塗っていきます。塗料の量は控えめにします。一回で厚く塗って終わらせるより、薄く2回塗る方がきれいに仕上がります。

◆ ホウロウ面の手入れ

こぼした汁の跡の汚れや錆び、指紋をとるには必ずストーブが完全に冷えるのを待って、乾いた布か少し湿った布、または柔らかいブラシを使って、水やその他の液体は使用しないで下さい。ムラにならないように火をつける前に完全に乾かして下さい。エナメル面には決して研磨剤やきめの粗い化学洗剤は使用しないで下さい。

専門業者を必要とするほどのがんこな汚れには、台所用の洗剤かエナメル面用の磨き粉のみを使用し、柔らかい布でクリーナーの跡を完全に拭き取って下さい。

◆ ドアラッチの調整の仕方

ビジラントのフロントドアは、その灰受け皿のアクセスドアと同じく、予期しない開口を避けるため、またストーブ内に空気が知らず知らずのうちに入ってくるのを避けるため、安全にしっかりと閉じていなければなりません。

一定の時期がたつと、ドアの周りのガスケットは弾力がなくなり、調整が必要になります。ドアハンドルを調整するためには、スモールロックナットをゆるめ、ラッチ

を調節します。ストライカースクリューを一回転させ、スモールロックナットを締め直します。ロックナットを締めるときに、ストライカースクリューが回らないように押さえていて下さい。調整が正しく完了するまで、少しずつ調整を繰り返して下さい。

適切に調整されたドアではハンドルが閉じている位置になったときに少し抵抗があり、ドア自体はストーブに向かってわずかに引き込まれる状態にならなければなりません。

◆ 空気取り入れ口の点検

空気取り入れ口は自由に開いたり、閉まったりしなければなりません。もし、そうでなければシャッターやシャッターピンが折曲がったりしていないか確認して下さい。

必要なら地域のバーモントキャスティングス代理店にご相談下さい。

◆ ガスケットの状態確認と取り替え方法

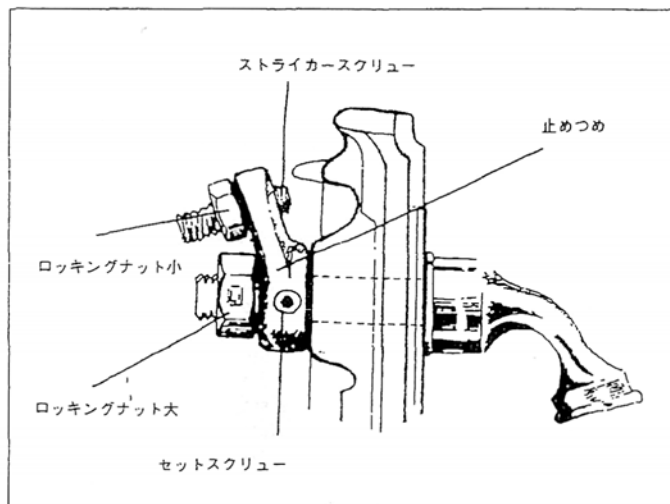
お求めいただいたディファイアントアンコールには、いくつかの部品の間をしっかりと密閉するため、ローブタイプのファイバーグラス製のガスケットを使用しています。絶えず使用していると、特にそれぞれの部品の動く部分ではガスケットがもろく、弾力がなくなって、その効果を失い始めることがありますので、定期的に取り替えることが必要になります。すべてのガスケットがファイバーグラス製で、耐熱ガスケットセメントでしっかりと固定されています。

ガスケットのサイズは各部分によって異なりますので別紙表でご確認下さい。

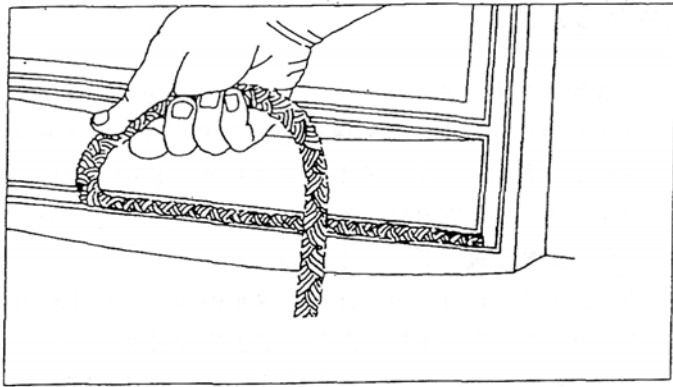
ガスケットの取り替えが必要な時はまず、適合する取り替え部品をお近くのバーモントキャスティングス代理店からご購入下さい。

交換の際には、ストーブがすっかり冷めてしまうまでお待ち下さい。ごみやほこりがついたものを扱いますので、必ず安全ゴーグルと防塵マスクをつけて、安全な操作手順に従って行って下さい。

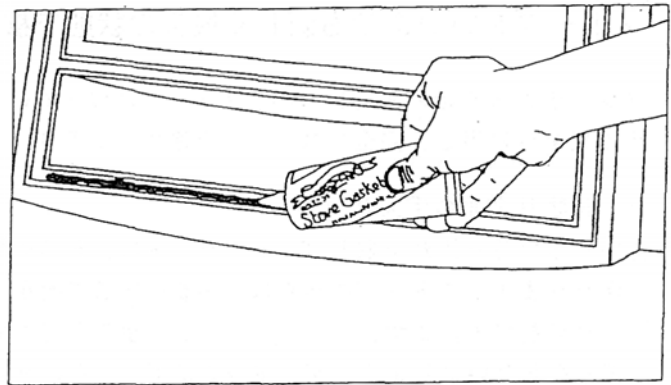
ガスケットの交換順序は、ガスケットの場所に関係なく同じです。9段階の操作がありますが、簡単に行うことができます。



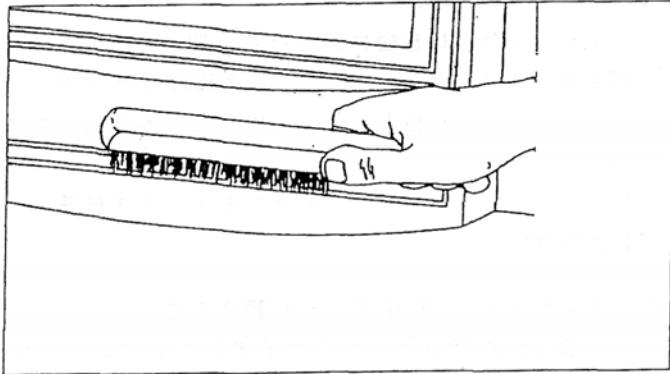
グラスファイバーロープの取り替え方



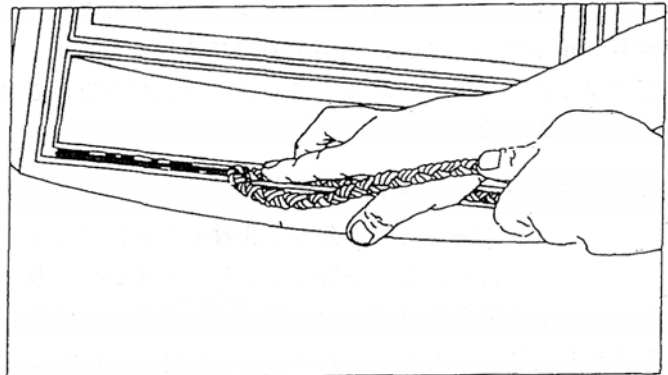
1. 取り替えの必要な部分についているガスケットの端を握って、強く引っぱって取り外します。



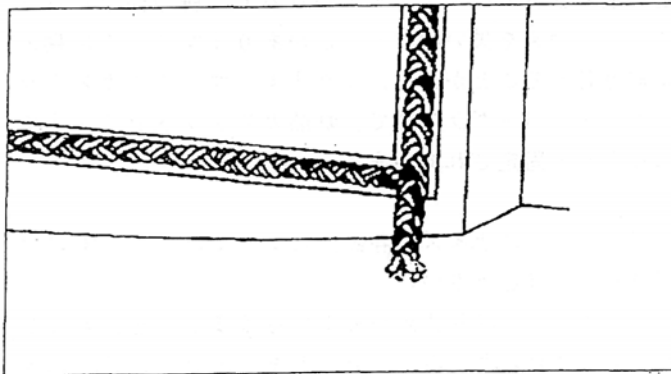
6. 耐火セメントをきれいにした溝に均一に塗ります。



2. ワイヤブラシかねじ回しの先を使って、セメントやガスケットの切れ端の残っている溝をきれいにします。落ちにくいセメントは、金のみなどで落として下さい。

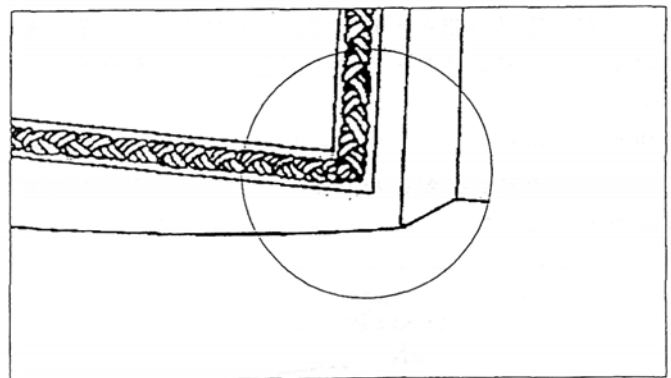


7. 一方の端から、ガスケットを溝の中に押し込んでいきます。余分を切り取る前に、ガスケットが合わる繋ぎ目の所をきれいに処理したか確認して下さい。ガスケットの端がはみ出さないようにし、また、端を繋ぎ目の所でほつれたままにしておかないようにして下さい。

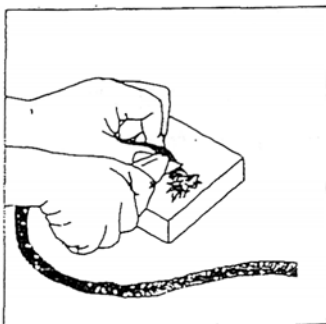


3. 溝に適合サイズのガスケットをきちんと入れていき、正しい長さを調べます。25mm~30mm余分に出して、切るところに印をつけます。

8. ガスケットが均等に溝に収まるように、ガスケットを入れた箇所を、交わる面に向かってしっかりと押します。これを行うには、ドアを開けてかけ金を掛けるか、他の木ずちで軽くたたいて下さい。



9. 溝の回りから余分なセメントを取り除き、新しいガスケットを固定しているセメントを完全に乾かします。



4. ガスケットを溝から出し、木製の切断用板にのせ、万能ナイフで印をつけたところを切ります。



5. ガスケットがほぐれてしまわないように、両端を少しねじらせておきます。

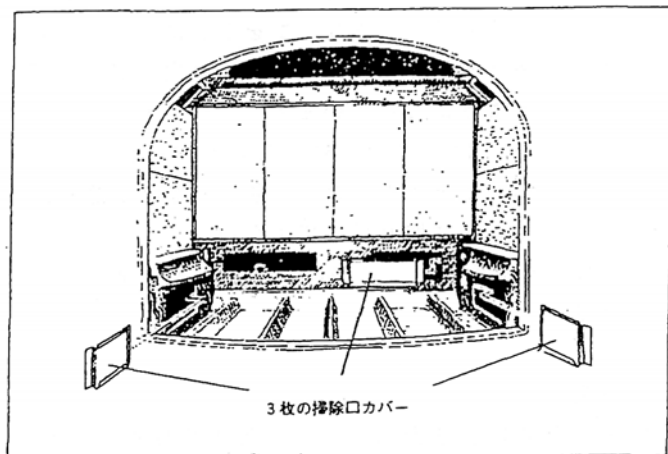
グラスファイバーロープ使用一覧表

トップグリドル：ワイヤー付	1250	81220
フルーカラ-口元	950	81221
灰受け	1250	81222
ドア左	950	81222
ドアガラス左	610	81221
ドア右	680	81222
ドアガラス右	610	81221
ドアガラスの間	1本	500-2822
耐火セメント (小) 85g		VC4470
耐火セメント (大) 292g コーキングカン用		VC4468
耐火セメント (カップ) 570cc		81130

◆ アクセスカバーの掃除

3枚の掃除口カバーをはずし、下部背壁および左右の側面プレートの裏側を掃除します。

左側面プレートのカバーをストーブの後方に向けてずらし、ストーブの内側に引き込みます。下部背壁のカバーを右に、右側面プレートのカバーをストーブの前方にそれぞれスライドさせ、ストーブの中に引き込みます。



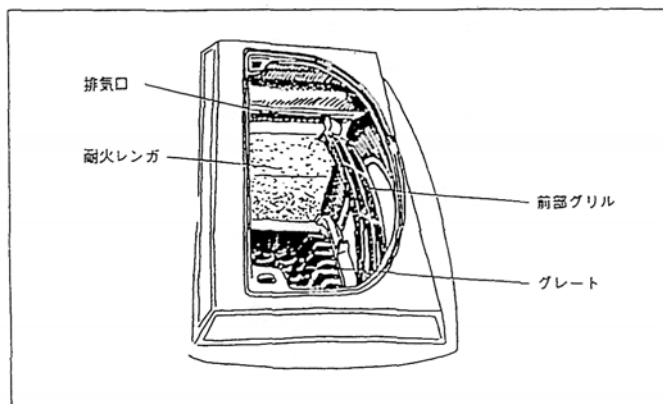
工業用掃除機または古い（汚くなるので）家庭用掃除機を使って、左右の側面プレート及び下部背壁の裏側のストーブの底をきれいに掃除します。

3枚のカバーは全く同じものです。短いオフセットのあるカバーの端が鋳鉄の裏に引っかかるように、長いオフセットのあるカバーの端を必ず先に掃除口に入れてから、スライドさせて下さい。カバーの長いオフセットのある方の端を、左側面プレートに入れてから、短いオフセットのある方の端が鋳鉄の裏になるようにストーブの前方にスライドさせます。下部背壁のカバーは、掃除口に差し込んでから左に押し、右側面プレートのカバーは差し込んでから、ストーブの後方に押しします。

◆ 内部パーツ

時には、炉から燃え残りの石炭を取り除いたり、古くなったパーツを調べたり、交換したりするために内部パーツをとりはずしたいこともあります。

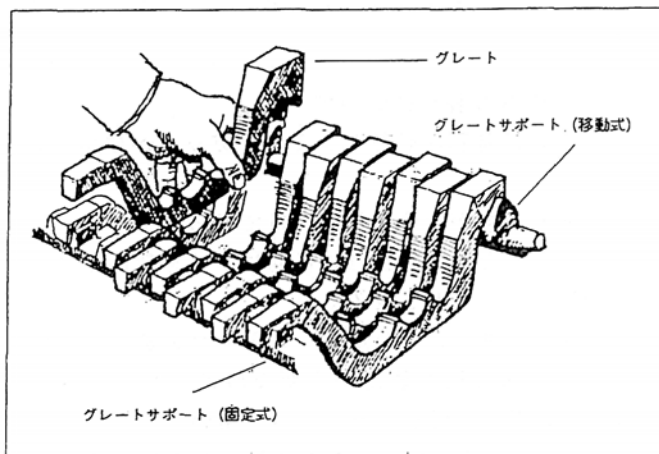
○ グリル上部にあるタブが側面プレートの上部にある排気口の中を向くように、前部グリルを真上に持ち上げます。グリルのタブを後ろ向きにスライドさせ、グリルを持ち上げて水平にします。



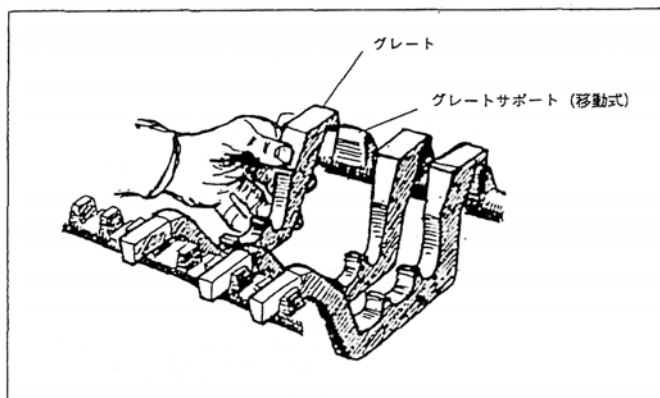
○ タブが排気口から外れるように、グリルの片方の端を前方に、もう一方の端を後方に動かします。グリルの開口部からグリルを持ち上げて取り出します。

○ アッシュフェットルをストーブから真上に持ち上げて取り出します。

○ 下部グレートを取り外すか、交換するにはシェーカーハンドルをストーブから反対方向に引きます。これでグレートは取り外すか、グレートサポートの上で交換できます。上部グレートを取り外すか、交換するには、シェーカーハンドルをストーブの方に向けて押します。これでグレートは取り外すか、グレートサポートの上で交換できます。上部グレートは他の上部グレートと互いに交換可能で、下部グレートも同様に互いに交換可能です。一つのグレートが著しく損耗している場合は、同じ種類の別のものと位置を交換して下さい。



下部グレートングレートサポートに乗せる。



上部グレートングレートサポートに乗せる。

側面プレートと下部背壁の裏側には3枚の掃除口カバーを通じてできるため、通常は他の内部パーツを取り除く必要はありません。他の内部パーツを取り除く必要がある場合は最寄りのパーモントキャスティングスの認定代理店に連絡して説明を受けて下さい。

内部パーツはこの順番に従って取り付け直して下さい。

- ・下部グレート
- ・上部グレート
- ・アッシュフェットル
- ・フロントグリル

◆ ガラスクリーニング

ビジラントのガラスは通常使用で、ガラスについたすの汚れのほとんどは高温燃焼するうちに燃え落ちてしましますので、あまり掃除を必要とすることなく、きれいに燃えている火を楽しむことができます。が、ガラス面にたまった灰の残りは、腐食を防ぐために定期的に取り除いて下さい。ガラスをきれいにするには次の手順で行って下さい。

- ・ガラスが完全に冷めているかを確認する。
- ・ぬるま湯に柔らかい布を湿らせて汚れを落とします。
- ・十分にガラスを濯ぐ。
- ・完全にガラスを乾かす。
- ・割れやひびの入ったガラスはすぐにお取り替え下さい。

研磨剤や粒子の粗い化学洗剤などは決して使用しないで下さい。

頑固な汚れには専用のガラスクリーナーがございますので最寄りのパーモントキャスティングスの代理店にお問い合わせ下さい。

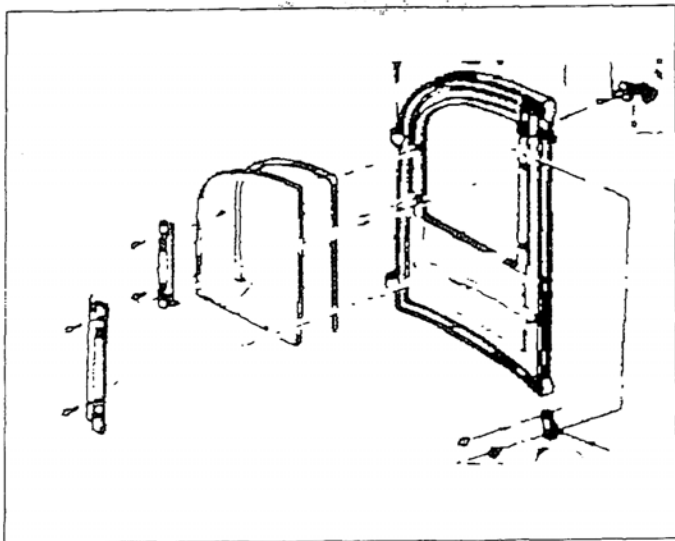
◆ ガラスの取り替えについて

ビジラントには特別な耐熱セラミックガラスが使用されています。

耐久性がありますが十分に気をつけて扱って下さい。硬い表面に落としたり、不注意に乱暴にドアを閉めたりすると破損するかもしれません。

ドアのガラスが傷ついていたら、ストーブを焚かないで下さい。ガラスの取り替えが必要な時は、パーモントキャスティングスの耐熱ガラスのみを用いて下さい。代用品は用いないで下さい。ガラスの取り替えは以下の手順に従って行って下さい。

1. はずしたドアは、敷物を敷いた床などに傷つかないように置いて下さい。
2. 二つのリテイナークリップを取り外し、古いガラスを慎重に取り外して下さい。こわれたガラス板をドアから注意深く外します。



3. ガラス面の回りのガスケットをチェックします。ガラスがドアに対してしっかりと密閉するようにガスケットが柔らかく弾力がなくてははいけません。ガスケットが固く、弾力がなくなっていたら取り替えます。

ガラスの一面がガスケットの定位置にくるように合わせます。赤外線反射塗装面が外側になるように置いたか確認します。

この時にガスケットを調べて、必要があれば取り替えて下さい。(ガスケットの項参照)

4. 二つのリテイナークリップをドアにある穴とねじを合わせて置きます。リテイナーの丸い穴はドア上部のねじ穴に合うようになっています。リテイナーのスロット(細長い穴)はドアの下にあるねじ穴に合うようになっています。リテイナーのおり曲がっている部分はガラスに向かうように取り付けて下さい。

5. ねじを締めます。この時強く締めすぎないようにして下さい。

◆ 煙突システム

安全のために、またストーブの働きを良くするために、さらに煙突と煙突コネクターを保護するために、煙突と煙突コネクターを定期的に点検して下さい。必要であれば煙突システムを掃除して下さい。煙突と煙突コネクターをきれいにしておくのを怠ると、大変危険な煙突火災になることがあります。

薪(石炭)が燃えると、燃焼の副産物が水分と結合して、煤を形成し、これが煙道の裏側に蓄積します。この煤に火がつくと、非常に高温の火となって燃えます。煙突コネクターと煙突は、ストーブを使う季節には最低でも2週間に一度は点検して、煤の蓄積があるかどうか調べるべきです。煤が蓄積している場合は、煙突煙突火災の危険を減らすために取り除いて下さい。

煙突内のドラフトにより炉床より運ばれる飛散灰もまた煙突や煙突コネクターから取り除くべきです。これらの微片は不燃性ですが、煙道のサイズを小さくするほどに蓄積し、ドラフトを制限することもあります。そうするとストーブの働きに影響を及ぼし、危険な状態になる可能性もあるからです。煙突システムをきれいに保ってドラフトを妨げる危険を減らして下さい。さらに、飛散灰は酸を含み、この酸が水分と結合すると、金属やタイルの煙突の壁を急速に劣化させることがあります。

煙突を点検するには、ストーブを完全に冷まします。次に強い光を当てて、煙道継ぎ輪から煙道の中を良く見ます。この方法で煙道システムを点検するのが不可能な場合は、さらに良く見える場所を確保するために、ストーブを煙道から外して下さい。

煙道の裏側と同じサイズと形の特別に設計されたブラシを使って、煙突を掃除します。ファイバークラス製の柔軟性のある棒を使って、ブラシを煙道の裏側の中で上下

させます。蓄積物を煙突の一番下までかき落とし、取り除きます。煙突コネクターは、煙突部材を外し、屋外に持ち出し、硬いワイヤー製ブラシで堆積物を取り除いて掃除して下さい。

掃除が終わったら、それぞれの煙突部材を鉄板ねじでしっかり固定しながら接続し直します。

煙突の点検についてわからない点などありましたら、最寄りのパーモントキャスティングスの認定代理店にお問い合わせいただくか、お近くの煙突掃除専門業者に煙突の点検及掃除を依頼して下さい。

下記のメンテナンスガイドラインを参考にして、自分に合った点検スケジュールを確立して下さい。メンテナンスのスケジュールができ上がったら、それに沿って確実に実行して下さい。

日常の手入れ

- ・灰は灰受け皿の上まで一杯になる前に取り除いてください。一日に一回は調べて下さい。グレートの下にたまった灰は燃焼に必要な空気の供給を妨げるばかりでなく、グレートを過燃焼させてしまい、ひずみやゆがみを生じさせる原因ともなります。

2週間ごと：

- ・ストーブの内部を調べて、室内空気取り入れ口、通気口に飛散灰や石炭などが空気、ガスの道を塞いでないか調べます。
- ・煙突と煙突コネクターを調べます。必要があれば掃除して下さい。

2ヵ月ごと：

- ・ハンドルとラッチが正しく動いているか確認してください。ガスケットが圧縮しているようならラッチを調節して下さい。
- ・飛散灰や煤が煙突コネクター、特に水平部分やエルボー（曲がり部分）に堆積しているかもしれないので確認して、堆積していたら、掃除して下さい。

◆ 春シーズンオフごとに一回

- ・グレート、ガスケットに摩耗、損傷がないか確認し、必要であれば交換する。
- ・飛散灰や煤が煙突コネクター、特に水平部分やエルボー（曲がり部分）に堆積しているかもしれないので確認して、堆積していたら、掃除して下さい。
- ・灰を完全に除去し、空気中の湿気を避けるために乾燥剤を灰受け皿の中に入れます。
- ・ボトムヒートシールドにたまった埃をきれいに除去して下さい。
- ・ストーブレッグや、ボトムヒートシールドのねじなどがゆるんでいないか確認して下さい。
- ・必要があればストーブに耐火塗料を塗って下さい。
- ・煙突と煙突コネクターを完全に掃除し、全ての飛散

灰や煤をきれいに落として下さい。

- ・煙突、煙突コネクターに消耗、材質悪化がないかどうか確認して下さい。腐食などがあれば交換が必要です。最寄りのパーモントキャスティングスの代理店にご相談下さい。

- ・ドアがきちんと締まるようにドアハンドルの調節が必要かどうか確認して下さい。必要であればハンドルの調整の項に戻って調整して下さい。

◆ ドラフトの問題

煙突のドラフトが妨げられると、一酸化炭素およびその他の有毒ガスを含む煙がストーブや煙突の外に押し出されて、部屋の中に漏れることがあります。これは危険な状態につながる可能性があります。硫黄のような匂いに気づいたり、ストーブから煙が頻りに逆流して漏れてきたら、火が消えるようにして下さい。次の燃焼を始める前に、すべての空気取り入れ口に障害物がなく、煙突コネクターと煙突がよく掃除され、ストーブが正しく操作されていることを確認して下さい。

ドラフトに関する問題を解決するために、以下のことを参考にして下さい。

- ・春か秋のそれほど寒くない日に、部屋を軽く暖めるためにストーブを燃焼しているときには、煙道へ熱を向け、ドラフトを良く保つために、ダンバーを開けてストーブを燃焼させます。春や秋には、ダンバーを開けた小さめの高温の火が適しています。
- ・ダンバーを開けてストーブを燃焼させると、煙道内の温度を高温に保つのに役立ちます。

外の気温が10℃まで上がると、外の気温が低かったときには存在しなかったドラフトの問題に気づき始めることがあります。このような場合には石炭を燃やすのは困難です。

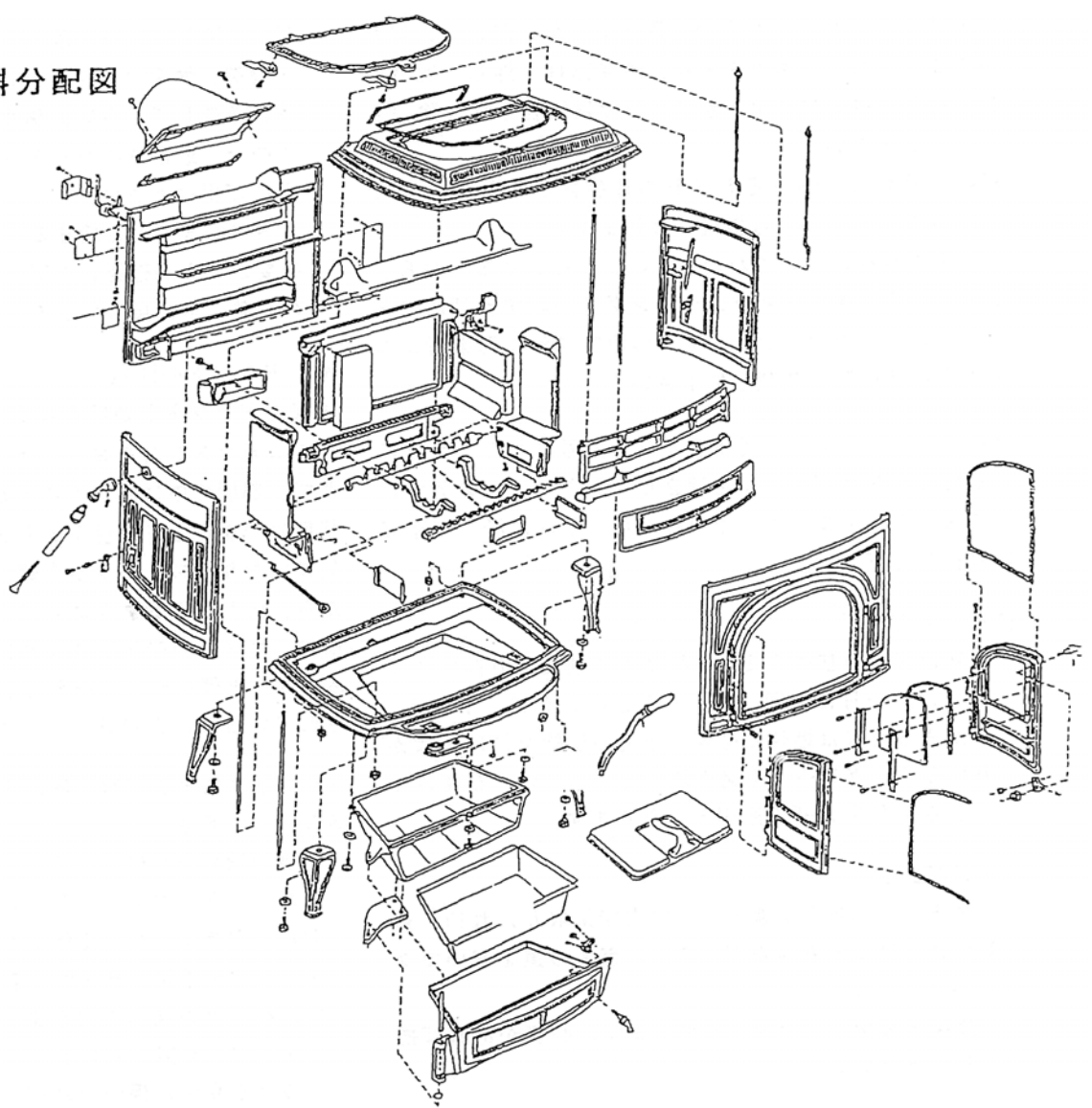
- ・風がある日にドラフトの問題に気づいたら、強風時のドラフトを安定させるよう設計された煙突トップを取り付けます。

◆ 安全のためのヒント

すべての安全器具をいつでも使えるように用意しておきます。

- ・煙探知器が正しく作動しているかどうか確認するために点検を行います。
- ・消火器が使える状態であることを確認し、見えやすいところに保管します。家の住人全員が、消火器の位置とその使い方を知っているようにして下さい。
- ・ストーブの近くに厚いストーブ用手袋を用意します。
- ・小さな子供がいる（または訪ねてくる）家庭では、特別な安全用具（例：子供保護用安全スクリーン）を用意して下さい。

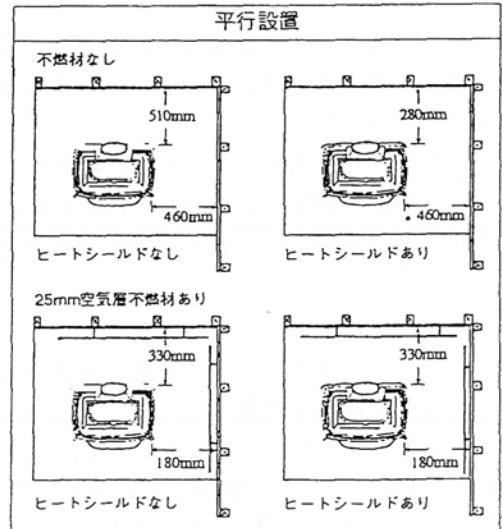
ビジラント多燃料分配図



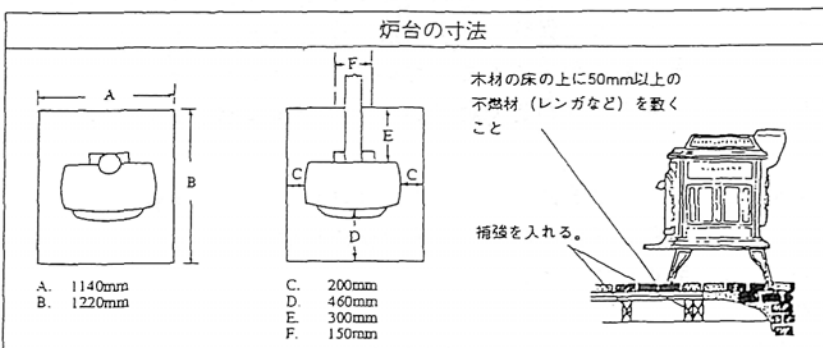
ビジラントのクリアランス表

	ストーブ本体のクリアランス					
	不燃材なし			25mmの空気層の不燃材あり		
	平行設置		コーナー設置	平行設置		コーナー設置
	側面	背面	コーナー	側面	背面	コーナー
ヒートシールドなし	460mm	510mm	410mm	180mm	330mm	230mm
上向き燧突ヒートシールドあり	460mm	280mm	410mm	180mm	330mm	230mm
横向き燧突ヒートシールドあり	460mm	280mm		180mm	330mm	
室内（シングル）煙突のクリアランス						
燧突ヒートシールドなし	430mm			230mm		
燧突ヒートシールドあり	230mm			230mm		
ストーブ本体全体のクリアランス						
き設置方法						
1220mm						

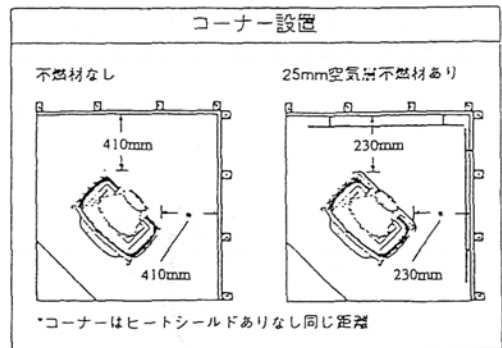
平行設置



炉台の寸法



コーナー設置





バーモントキャストインクス日本総代理店

ファイヤーサイド株式会社

〒399-41 長野県駒ヶ根市赤穂497-8
TEL 0265-82-4676代 FAX 0265-82-4683